



私と絵画

藤田 ^{まもる} 守さん(増田)



“誰にも負けない情熱を父へ送る”



▲ 個展のために竹夫さんの絵を修復している。

『親子展』

11月3日(木)10:00～
6日(日)15:00まで
御荘文化センターで開催

「心残りは今手掛けている絵を仕上げられないこと」そう言って亡くなった父・竹夫さんとの約束を果たすため、絵を描き始めた藤田守さん。子どものころは絵を描くことが好きではなく、ほとんど描いたことはなかったと言います。父の思いを胸に絵と向き合い、自己流で描き始めたものの思うようにいかず、宇和島市の絵画教室へ通い本格的に勉強を始めました。

「モノクロの濃淡で人の想像力の中に入っていきたい」と色の先入観にとらわれないよう鉛筆画の作品にはほとんど色を付けません。独自の手法で描く繊細なタッチの鉛筆画は、見る人の心に染み渡っていくような透明感を持ち、仕上がった作品にはまるで命が宿っているようです。

竹夫さんが残した『広見の獅子舞』の油絵は、下塗りを終えただけの状態。丸7年かかってようやく仕上がりと言える状態まで描きあげました。「100パーセントの完成ではないが区切りをつけ、父のお世話になった方々や父への思いを込め、「親子展」と題した個展を開くことにした」と、手元に残る竹夫さんの作品を手入れします。

父との約束から10年。宇和島や大洲で個展を開く度にさまざまな人との出会いや経験を積み重ね、地元での開催に至った個展は『私と父の願い』と語る守さん。「親孝行をしたことはなかったが、父の供養のために情熱を注いできた。一段落ついたら気楽に好きな絵を描きたい」と獅子舞の絵を見つめながら話しました。

編集後記

どこまでも続く澄み渡った青い空と海。一体どこまでが空で、どこから海なのか。そんなことを考えながらランナーたちの背中を追いかけた夏の終わり。「こんなきれいな所があったんですね。知らなかった」そう言って写真を撮るランナーたちの携帯と心に記憶された絶景や逸品、人々の笑顔とおもてなし。疲れた心と身体を癒やし、お腹も心も満たされたい人！愛南町は新規ファンまだまだ募集中です！

ランナーと駆け抜けたマラニック。私はもちろん車で。カメラ片手に高茂岬を一周してエイドステーションに戻ると「お疲れさまです！」とスタッフの方が私に水分を。どうやら私の表情はランナーと間違われるほど険しかったようです。晴天の下で食べる愛南ゴールド塩アイスはとても気持ちよく、2本もごちそうに。2本も食べたのは私だけということの後日知りました。グルメ部門は完踏できました。M

編集・発行

愛南町役場 総務課 〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地 電話：(0895)72-1211 FAX：(0895)72-1214

